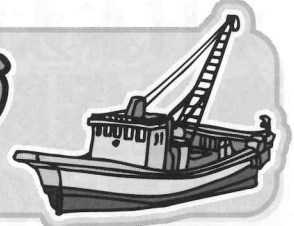




何でも魚^{うお}ツチング

No.74 『庄内の過去の地震』



3月11日の東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を祈ります。また、被災された方々にお見舞い申し上げます。

グラツと来たらテンデッコ、まず高台です。千年に一度とか二百年周期などさまざまな予測や憶測が飛び交っていますが、さて庄内では、と連休中に図書館で郷土史を発掘してきました。

1. 昔の海域震源地震と津波等発生状況

850年・酒田沖のマグニチュード7程度、出羽の国府があった酒田市本楯の城輪柵に津波が迫った。

1804年・象潟沖のマグニチュード7.0で、3〜4mの津波が押し寄せ地盤が2m隆起した。1689年に松尾芭蕉が「あつみ山や吹浦かけて夕涼み」とか「象潟や雨に西施が合歓の花」の句を詠んだ奥の細道で「裏松島」と名を馳せた景色は、この時の隆起により今は田んぼになっています。

1833年・庄内沖のマグニチュード7.7で秋田から新潟まで津波が押し寄せ、吹浦〜温海の被害も多かった。小堅には津波の最大到達点海拔15mとの石碑が今でも残っています。

2. 昔の陸域震源地震と地盤等変化状況

1894年・庄内大地震と称される庄内平野北部直下型のマグニチュード7.0により、庄内全域で地面の亀裂、隆起、陥没、噴水及び噴砂がみられた。

3. 私の記憶に残っているもの

1964年・新潟沖のマグニチュード7.5、局所的に地面の亀裂、隆起、陥没による被害があった。小学4年の昼休み、側溝に落ちたボールを拾おうとした時でした。

1983年・日本海中部のマグニチュード7.7、加茂の荒崎にも小規模な津波が押し寄せ、その前に水産試験場の研究員が釣人に避難を呼びかけた。

1993年・北海道南西沖のマグニチュード7.8、北海道の奥尻島になんと日本海では考えられない30mの津波が押し寄せた。

なお、飛鳥は海岸段丘の地形で有名ですが、60m・40m・20m・5mと大きく段丘層に分かれており、これは太古からの大きな地震等地殻変動により隆起した証拠です。

地震には関係ないことですが、最近、庄内浜で珍しい魚や巨大魚が漁獲されています。

3月22日に由良地区の底びき網でサメガレイ……写真1（全長32cm、体重430g、裏表が黒く表側に小さな瘤が多く美味、主に太平洋に生息し日本海では稀）、4月6日に由良地区の定置でネズミザメ……写真2（通称モウカザメ、全長2.5m、推定体重300kg、北の海に生息しサケマス類を好んで食べるため英語でサーモンシャークと呼ばれ、本県でもサケマス流し網漁業盛んだった頃、北海道沖で漁獲され水揚げされていた）、4月21日に酒田地区の底びき網でイシナギ（通称オオヨ、全長1m余り、体重108kg、沖合の水深100m前後の礁に生息し主に一本釣りで生きたイカや子ヒラメを餌にして漁獲される）。その他、3月上旬から4月末にかけて小型の歯クジラ類も都合4頭が浜に打ち上げられています。

今年、大物がいろいろ回遊してきています。この調子で庄内浜が大漁で賑わうことを期待しています。

水産試験場 副場長 佐藤 洋



写真2

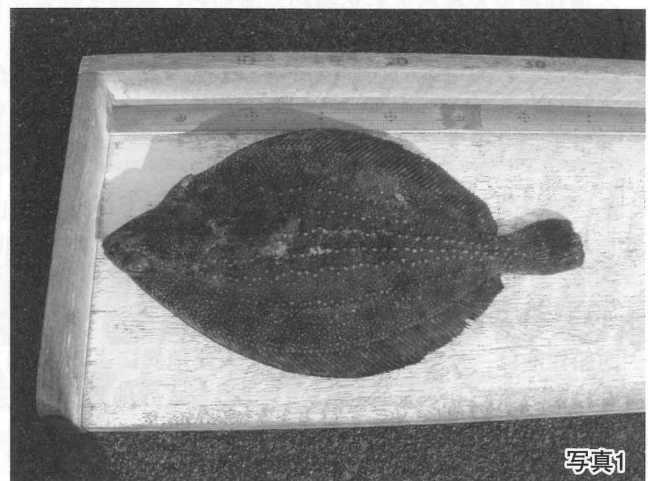


写真1